

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2018/6/21
所属学部	教育学部
所属学科・専攻	中学校教員養成課程英語化教育分野

1. 留学先について

留学先大学名	東フィンランド大学							
留学先所属学部等	School of Humanities: Foreign Languages and Translation Studies (Joensuu)							
留学期間	出発日	2017/8/31	入学日	2017/9/1	修了日	2018/5/9	帰国日	2018/5/11
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	<input type="checkbox"/> その他()					
	通学時間	約15分(自転車)or 約5分(バス)					<input type="radio"/> On campus	
	通学方法	徒歩						
	居室スペース	<input type="checkbox"/> 個室	<input checked="" type="radio"/> (3) 人部屋	<input type="checkbox"/> その他()				
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input checked="" type="radio"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> バス	<input type="radio"/> リビング	<input type="checkbox"/> その他()	
食事	自炊	55 %	学食	35 %	外食	10 %	その他	() %
保険	海外旅行保険(名称)	t@bihotaiほ						
	派遣先大学指定の保険(名称)	なし					強制加入	
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	福岡	⇄	ヘルシンキ(飛行機)	⇄	ヨエンスー(飛行機)			

2. 留学にかかった費用について

総費用	約1000000 円						
出どころ							
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	300,000 円	<input type="checkbox"/> その他	円	
援助	<input type="checkbox"/> 両親	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円	
奨学金	<input checked="" type="radio"/> JASSO	720,000 円	<input type="checkbox"/> その他名称()			円	
その他	<input checked="" type="radio"/> 千葉大学助成金	360,000 円	<input type="checkbox"/> その他()			円	

2-1. 財政管理の方法

渡航時	○	現金	50,000 円	その他()	円
留学中	○	海外送金	キャッシング	その他()	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	0
住居にかかった費用	約30000円×9ヶ月
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	ユーロ	190	24,441	円
海外旅行保険	ユーロ	792	102,000	円
OSSMA	ユーロ	201	25,920	円
査証・在留許可証	ユーロ	360	46,200	円
住居	ユーロ	226×9	261,657	円
食費	ユーロ	3,109	400,000	円
通学に要する交通費	ユーロ	180	23,155	円
教科書、教材費	ユーロ	15	1,929	円
その他大学に支払った経費	ユーロ	0	0	円
光熱費/wi-fi	ユーロ	住居代に含まれる		円
その他 (フットサル)		100	12,864	円
その他 (旅行)		777	100,000	円
その他 (携帯)		153	19,722	円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	○	無
1 Morphology and Syntax	正規	3	有	○	無
2 English Grammar 1	正規	3	有	○	無
3 Finnish Educational Systems and Organisations	正規	2	有	○	無
4 History of English	正規	3	有	○	無
5 Current trends in education	正規	5	有	○	無
6 Education, Learning and Cognition	正規	6	有	○	無
7 Introduction to contact linguistics	正規	3	有	○	無
8 Introduction to linguistic studies of English	正規	2	有	○	無
9 Theory and Practice of Teaching Foreign Languages to Your	正規	5	有	○	無
10 Introduction to Finnish School Life	正規	3	有	○	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

weboodiという履修登録や単位取得状況の確認などをするサイトを利用して授業登録する。この大学では、授業が曜日固定ではなく、日にち単位で授業が組まれるためうまく調整しながら授業登録しなければならない。

また、履修登録がオリエンテーションをやっている期間中に可能なので、できるだけ早めに履修登録するのが良い。(人気の授業はすぐに定員いっぱいになり締め切られてしまう。)

この大学では学部に関係なく授業を受けることができる。実際、私は言語学科だったが教育学科の授業をいくつとった。注意が必要なのは、言語学系の授業である。これらの授業はあらかじめ自分の大学に関連した授業を受けていてそれを証明できる書類(成績表など)がないと受けることができないものがあった。(私は言語学科で入学許可がおりたため、その時点で成績書を提出していた。)

3-2. 授業内容、方法に関して

講義式の授業が主で、その他ディスカッション形式などあり。

また、授業がなく課題を出すだけで単位がもらえる授業もあり。(その代わりそれなりの課題が出される。)言語学系の授業では、日本の大学だと例に出される言語が主に日本語や英語だが、こちらではやはりフィンランド語やヨーロッパ系の言語が多く例として使われていた。

教育の授業では、附属の小中学校と連携しているものがあり、授業見学や実際に現地の生徒に日本語を教えるという体験ができた。

3-3. 語学力について

語学の成績証明は必要ない。とりあえずくればなんとかなる。強いていえば、日常生活ができる程度のリスニング力があれば、後々英語力は伸びてくると感じた。英語のネイティブは少なかったが、フィンランド人は基本英語できる。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館は平日8-18土曜10-14で開いている。閉館時間に関係なくデポジットを8ユーロ払えば、いつでも利用することができる。(23時までに入館すれば夜中ずっと利用することができる。)

デザイン性もかなり良く、勉強しやすい環境である。

いわゆる”人をダメにするクッション”が図書館にいくつか置いてあり、自由に移動して使って良いのはかなり驚いた。

パソコンの数が限られているため、順番待ちをしている時がしばしばあった。

3-5. その他

授業が曜日固定でないのと学期の途中から始まる授業などもあったため、楽な時期と忙しい時期の差がかなり激しかった。自分は日本から本をたくさん持っていったため楽な時期に自分の好きな勉強をすることができた。忙しい時期は朝の4時まで図書館にこもっていた時もあった。自習をするスペースは図書館だけでなく、何気ない廊下などにもおしゃれなソファや机などがあるので、いつでもどこでもできた。

4. 生活面

4-1. 住居について

大学が斡旋している会社(Joensuu Elii)から月々226ユーロで3人のルームシェアの部屋を借りた。鍵付きの個別部屋があり、リビング・台所・シャワールーム・トイレが共有スペースだった。トイレとシャワールームは別々である。家具なしの部屋であったが、セカンドハンドショップで安く家具を手に入れることができた。比較的広めの個人部屋で、友達が遊びに来ても窮屈ではなかった。

4-2. 食生活について

学食がかなり安かった。学生であれば1.88ユーロでおかずかスープ1品とパンとサラダの食べ放題がついてくる。味の印象としてはあまり美味しいイメージはなかったが、食べれないほどではない。蒸したジャガイモは毎食出していた。ちなみにパンはとても美味しかった。外食はかなり高かった。ギリシャ料理店などあったが、どの料理も2000円以上はしていた。ファストフード店は日本より少々高いくらいだったので利用する機会は多かった。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

大学とデパートではfree WIFIが通っていた。私は日本の携帯をsimロック解除し、フィンランドのSIMカードを入れて使っていた。大学からも最初のオリエンテーション時に無料でSIMカードをもらうことができる。プリペイド式でお金を入れた分だけ使えるというもので、インターネット上からもチャージ可能で、金額も自分で決めることができる。

4-4. 服装について

9月でも日本に比べると寒く、長袖を着ていた。11月頃から雪が降り始め、1月では-20度を越すことが何度もあった。そのためニット帽は必須で、ネックウォーマーで口元を隠していた。しかし寒いのは外だけなので脱げる格好でないと室内では暑い。

4-5. 健康管理について

大学内に病院のようなものがあるので体調を崩したら利用すると良い。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

一度も利用していない。

4-7. 課外活動について

フットサルのクラブチームに加入した。週2回の練習や、片道2時間かけて遠征に行ったりもした。大学以外で様々な年齢層のフィンランド人の友達ができる。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

language cafe という様々な言語をその言語のネイティブの人たちが教えるというコミュニティがあり、日本語を教える体験をした。東フィンランド大学以外からの生徒おり、新しいコミュニティの場になった。一人のオーガナイザーがおり、その人が授業のようなものを考え、ほかの日本人がヘルプをするというものであった。

4-9. 日本から持参してよかったもの

何と言ってもユニクロ製品である。やはりかなり質が良く、特にネックウォーマーは重宝した。ヒートテックは何枚も持っていくべきである。
あとは、自分は持って行くのを忘れてしまったのだが、水着は持っていくと良い。サウナや湖、winter swimmingをするときに必要になる。(自分はスポーツウェアで代用した。)

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

日本用のたこ足配線。結局使わず、フィンランドでフィンランド用のものを買ってしまった。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

フィンランド人は初めはシャイである。慣れるととてもオープンになるように感じる。また、ぶっきらぼうな顔をしているように見える時が多々あるが、よく見るとちゃんと笑っている。パーソナルスペースがかなり広く、バス停で並んでいるとかなり広がって並んでいる。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

エストニア、ロシア、イギリス、フィンランド(ヘルシンキ・ロバニエミ)に行った。日本から行くよりもはるかに安くいけるので絶対に行くべきである。また4.5日の休みがよくあるので旅行には行きやすいと思う。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

上述だが、よくサッカー(フットサル)をしていた。また、SYKETTÄという様々なスポーツをする機会を与えてくれる団体があり、ボールスポーツは毎学期16ユーロで使用することができる。(その他の競技もしたい場合は32ユーロ)その他には、映画やバレエを見たり、スケートなどもした。11月は日照時間が短く気温も下がり始める頃でかなり気分が落ちるので、体を動かすなどのストレス解消法を自分なりに見つけておくことが必要である。

5. その他

5-1. 留学先大学について

大学自体かなり綺麗で勉強しやすい環境が整っていると思う。附属の小中学校があるため授業の観察などがかなり行きやすく、授業5分前に許可を取るだけで観察できる。留学生の数は想像していたよりも多く、スペイン人が多かった。
難点を挙げるとすれば、ヨエンスー自体が田舎であるため、大学の周りの店が21時ごろにはほとんど閉まってしまうところだ。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

上述の通り、教育に興味がありフィンランドの実際の教育がどのように行われているのか観察したい場合はオススメの大学である。サンタクローズやムーミン発祥の地であるフィンランドは日本人に馴染みのある国だと思うが、留学することでイメージを違ったものを経験できたり、ほかの国ではなかなかない文化もあったので興味ある方はぜひ留学先に選んでみてはどうだろうか。積極的に行動していれば必ず新しいことに出会えるはずである。

5-3. 留学を終えて

この留学を通して一番成長できたと思うのは、対応力である。日本とは全く違う土地に9ヶ月間住み、違う文化を持った人々と接してきた。その中でアドリブで対応しなければならない場面も多々あり、幾度となく乗り越えてきた。いまでは多少のアクシデントが起きたとしても冷静に物事を把握し、対処できるという自信がついた。

フィンランドは英語が公用語ではないが、それでも留学前と比べると格段に英語力が増したと感ずることが出来る。まずは友達を作り、仲良くなってたくさんお話することである。勉強している感覚がなくても自然と英語力が伸びた。自分はリスニングが苦手だったが、諦めずに何回も聞き直すことで最終的にはスムーズに会話ができるようになった。

その他にもありきたりではあるが、open-minded になったように思う。様々な人と関わりあい様々な考え方や様々な話を聞くことで、大抵のことは受け入れられるようになった。

この留学は総じてとても有意義なものになった。この経験が将来に活かせるよう、日本に帰ってからも精進したいと思う。